

**情報通信審議会 情報通信技術分科会**  
**携帯電話等周波数有効利用方策委員会**  
**700/900MHz帯移動通信システム作業班（第2回） 議事要旨（案）**

## 1 日時

平成22年2月19日（金） 16:00～17:15

## 2 場所

総務省 11階 第3特別会議室

## 3 出席者（敬称略）

作業班構成員：

若尾 正義	(社)電波産業会
石川 禎典	(株)日立製作所 (代理：友岡 啓二)
石田 和人	クアルコムジャパン(株)
伊藤 健司	ノキアシーメンスネットワークス(株)
上杉 浩之	日本電気(株)
木津 雅文	トヨタ自動車(株)
草野 吉雅	京セラ(株)
小林 朗	(社)電子情報技術産業協会
佐々木 邦夫	パナソニック(株)
菅田 明則	KDDI(株) (代理：中川 篤)
菅並 秀樹	日本放送協会 (代理：三浦 美治)
杉本 明久	(社)日本CATV技術協会
高田 仁	(社)日本民間放送連盟
田中 伸一	ソフトバンクモバイル(株)
谷口 正樹	富士通(株) (代理：大山 淳)
土田 敏弘	日本電信電話(株)
土居 義晴	三洋電機(株)
中川 永伸	(財)テレコムエンジニアリングセンター
中島 潤一	(独)情報通信研究機構
西本 修一	(財)移動無線センター
浜名 康広	(財)日本移動通信システム協会
古川 憲志	(株)NTTドコモ
牧野 鉄雄	日本テレビ放送網(株)
諸橋 知雄	イー・モバイル(株)
矢野 陽一	(株)ウィルコム
山口 博久	インテル(株)
山本 浩介	モトローラ(株)
要海 敏和	UQコミュニケーションズ(株)
山本 裕彦	シャープ(株) (代理：藤内 紀彦)

説明者：

高野 祐美子 KDDI(株)

事務局：

総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課長 竹内、同課 推進官 高田、同課 課長補佐 中里、同課 移動体推進係長 白壁、同課 第二技術係長 遠藤、同課 移動体

#### 4 配布資料

資料番号	配布資料	提出元
資料81-700/900移2-1	700/900MHz帯移動通信システム作業班(第1回)議事要旨	事務局
資料81-700/900移2-2	700/900MHz作業班 プレゼンテーション資料	NTTドコモ
資料81-700/900移2-3	700/900MHz帯移動通信システムの基本コンセプトについて	KDDI
資料81-700/900移2-4	700MHzと900MHz割当のハーモナイゼーション	クアルコム ジャパン
参考1	アドホックグループ 名簿	事務局
参考2	審議スケジュール	事務局

#### 5 議事概要

##### (1) 前回議事要旨について

前回議事要旨(案)(資料81-700/900移2-1)は、作業班構成員に事前に送付されていることから、読み上げは省略して配布のみとし、気づきの点があれば、2/25(木)までに事務局まで知らせることとなった。

##### (2) 700/900MHz帯移動通信システムの基本コンセプトについて

NTTドコモ、KDDI及びクアルコムジャパンより、それぞれ資料81-700/900移2-2、資料81-700/900移2-3及び資料81-700/900移2-4に基づき700/900MHz帯移動通信システムの基本コンセプトについて説明が行われ、次のとおり質疑応答があった。

高田構成員：クアルコムジャパンのプレゼンテーションにおいて、他のシステムに対する提案も含まれていたが、この作業班で行う調査はどの範囲までかということをもう一度整理されてはどうか。

若尾主任：引き続き検討していく課題であると理解している。

事務局：本作業班は移動通信システムの技術的検討を行う場であるが、関連する事項について利害関係者を含め皆が特に問題ないとする提案や意見があれば、ここで取り上げることも可能である。他方で、利害関係者や他のシステムの利用者の賛同を得られない意見であれば慎重な検討が必要になる。他に相応しい検討の場があれば、本作業班とリエゾンをとることが考えられる。

三浦(菅並構成員)代理：本作業班は、他の無線システムの周波数割当の変更も含めた検

討を行うのか。

事務局：基本的には700/900MHz帯に導入される移動通信システムの技術的条件を検討する場である。他の業務の割当を検討する場ではないが、移動通信システムの周波数の使い方や技術的条件について検討する上で、隣接システムを考慮せずに検討できないため、他のシステムも視野に入れながら結論を出していくことになる。検討の中で関連する提案や意見に問題があるのであればその旨述べていただきたい。

若尾主任：700/900MHz帯の利用については既に割当計画において決定されていることであり、それを見直すということは本作業班の仕事ではない。ただ、技術的な検討の中で、隣接システムについて検討すべきことがあれば検討していくということだと認識している。

牧野構成員：国際的な協調を図ることは重要だと思うが、今後この周波数帯でどのような利用を行っていくかの議論が必要になる。携帯無線通信は、伝送速度を上げるため、将来は3～4GHz帯での利用が不可欠であるという話も聞かれる。ここでの議論が、この周波数帯での利用の最終的な形ではないという考え方も必要ではないか。

土居構成員：NTTドコモ、KDDIのプレゼンテーションの中で、音声通信よりもデータ通信を重視しているように見えるが、①700MHz帯で音声通信を行う予定があるのか。②プレゼンテーション資料中のトラヒックには、上りのトラヒックも含まれているのか。

古川構成員：①700MHz帯でどちらか一方のみとは考えていない。LTEはデータ通信専用のシステムであるが、音声通信についての標準化も始まっている。将来的にはLTEのシステムの中で音声通信も行っていくことになると思う。②トラヒックは、上り下り両方含まれた数字である。

中川（菅田構成員）代理：基本的にNTTドコモと同意である。①音声通信かデータ通信のどちらか専用で使うとは考えていない。LTEを導入し、どのように利用していくかを考えることになる。②トラヒックは、上り下り両方含まれた数字である。

### (3) その他

事務局より、2つのアドホックグループには、参考1のように参画の希望があった旨が報告された。また、当面の作業班、アドホック会合について、予定される議事等の説明があった。